

ほくとライブラリー



# 新屋図書館だより



発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No. 212

R1. 7月号

## 夏休み子ども講座

### 「切り紙でデザインするステンシルマイバッグづくり講座」

布バッグに切り紙を貼って、色を塗って、世界にひとつだけのマイバッグをつくろう！

日時：令和元年7月30日（火）午前10時から正午まで

場所：新屋図書館

対象：小学生以上の子どもと保護者

定員：20名

申込み：令和元年7月22日（月）から

申込先：秋田市環境部環境都市推進課

（018-888-5708）



## 7月のおはなし会

7月6日（土）14:00~14:40

たなばたおはなし会

～たなばた飾りを作りましょう～

おはなしの部屋

幼児～小学生

7月9日（火）10:30~11:00

おいしい！おいしい！

～絵本・手遊び～

おはなしの部屋

赤ちゃん～

## 新刊案内

### 「発酵」のことが一冊でまるごとわかる

齋藤 勝裕／著

ベレ出版 請求記号 588 (発酵)

とても身近なのに、実はよく知らない…ということも多い不思議な現象・「発酵」。その起源から、発酵させることで作られる古今東西のさまざまな食品、さらには発酵が服や紙、器にまで活用されているという驚きの事実まで、わかりやすく紹介します。

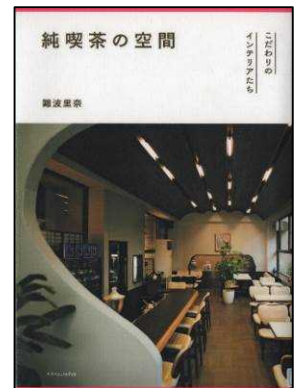


### 純喫茶の空間 こだわりのインテリアたち

難波 里奈／著

エクスナレッジ 請求記号 596 (喫茶店)

純喫茶。なんという甘美な響き。少し暗めの照明に、ビロードのソファ、何十年と時を刻んできた壁掛け時計、通った客の数だけ色が変わった机や椅子。アルコールは出さず、店主がこだわった珈琲・紅茶の香りが漂う純喫茶は、その扉を開けると昭和レトロな別世界に連れて行ってくれます。



### 中年マンガ家ですが介護ヘルパー続けてます

吉田 美紀子／著

双葉社 請求記号 916 ヨ (コミックエッセイ)

20年間専業漫画家として生活をし、独身のまま40歳を越えた頃、仕事がゼロに。何か資格をと思い、介護の基礎を学ぶ初任者研修に通い、訪問介護、精神病棟での介護助手、特別養護老人ホームでの仕事に就いた奮闘ぶりを、介護者側の目線で描きます。

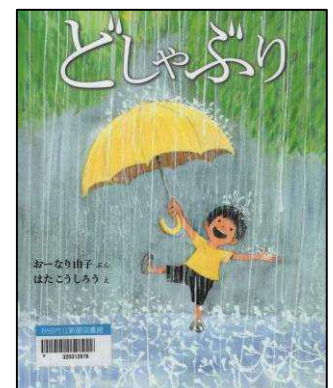


### どしゃぶり

おーなり 由子／ぶん はた こうしろう／え

講談社 請求記号 E ハ (絵本)

暑い日、真っ黒な雲がこっちに来て、ぼつつ、ぼつつ、ぼつつ！と大きい雨が降ってきた！空から、地面から、いろんな音がする。雨の音が聞こえるよ。水たまりをけつとばしたり、飛んだり跳ねたり…どしゃぶりと思いっきり遊ぼう！



## 図書館員（大石 美和子）のおすすめ本

書名

怠惰の美德

著者名

梅崎 春生／著、荻原 雷魚／編

出版社

中央公論新社

所蔵

新屋

請求記号 914 ウ ( 随筆 )



毎日ぼんやりだらだら過ごしたい。ずっと布団から出たくない。そう思っている人はいないでしょうか。……はい！それは私です！

怠け者万歳主義者には、これ。戦後派と呼ばれた作家、梅崎春夫の徹底した「怠惰」ぶりを存分に味わうことができる随筆集です。

十時間以上眠ったうえに昼寝もし、寝てばかりいる癖・これが寝ぐせだとして、仕事は苦痛

だと言い切る。時には、満員電車が嫌いだから、人間は身長が縮むよう体質改善したらいいなどとベッドの上で考える。

そんな梅崎氏は、戦争に徴兵され、日本人がどれほど背徳不倫なことをやれるかを、現実の行動で知り得たと書き、力まざるりくらりと、けれど鋭い洞察で皮肉にユーモアを交えて社会を風刺するのです。

## 図書館員（鎌田 友理）のおすすめ本

書名

刑務所通いはやめられねえ

著者名

桂 才賀／著

出版社

亜紀書房

所蔵

イソップ

請求記号 326 ( 刑務所 )



名前や役割は知っていても、その実情をなかなか知る機会のない刑務所。規則は厳しく、食べられるものや髪型が決められ、許可がなければ部屋であっても横になることができません。

そんな中、受刑者たちの数少ない楽しみのひとつが、歌手や芸人によるライブを観覧できる“慰問”です。ひよんなことから沖縄で少年院の慰問を行った落語家の才賀さんは、さまざま

な縁が繋がった結果、その後25年にわたって全国の刑務所・少年院の慰問を行うこととなります。

なかなか心を開いてくれない受刑者たちから笑いを取ろうと、ネタに“刑務所あるある”を織り交ぜたり、慰問先の刑務官と交流したりと、「刑務所」という場所に心から寄り添おうとする才賀さんのあたたかさに、“楽しむこと”の意味を考えさせられます。

## 記事になったお酒の話題あれこれ…雪中貯蔵の日本酒蔵出し…

例年約2メートルもの積雪のある羽後町。やっかいものの雪を利用しようと菅原商店が1995年から始めた雪室に保存した雪中貯蔵。今年は2月に純米吟醸「七曲り峠」の新酒千本と古酒500本を運び込み雪で覆った。雪室の中は気温零度、湿度100%で酒の質が変わりにくいという。「蔵出し」した冷たい日本酒は「まるやかで、飲みやすい」と店主の菅原さん。

雪の中で5カ月間眠って育った日本酒。何だか特別感があり、暑い夏、のど越しも一層よさそう。

新屋は、醸造の街。  
新屋図書館には、酒の  
資料コーナーがあります。

【参考資料】  
朝日新聞2019年  
6月14日

## 平成ってどんな時代？ …平成26年…

「壁ドン」が流行語になり、日本中に女性たちの黄色い声が響き渡っていた平成26年（2014年）。この年の出来事を調べてみると、強く印象に残っていることが多々ありました。「これはこの年に起こったことだったっけ…」と物思いにふけることもしばしば。

スポーツ界では、羽生結弦選手がソチオリンピックで日本男子初の金メダルを獲得したことが大きなニュースでした。また、同じ大会では、レジェンド葛西こと葛西紀明選手も銀メダルを獲得し話題になりました。当時19歳と41歳だった2人が成し遂げた快挙に、自分のことのように喜び、大興奮していたのは私だけではないはずです。

この年は、スポーツが日本を盛り上げ活気づいていた反面、自然災害が牙を向いた年でもありました。9月27日に起こった、長野県と岐阜県の境にある御嶽山の噴火です。この災害で、噴石の直撃などで58人が死亡した他、5人が行方不明となりました。

1年間に起こったことを振り返ってみれば、忘れていたことも多く…。ですが、忘れてはいけないこともたくさんあります。

【参考資料】『読売報道写真集 2015』

## 図書館員のひとりごと

我が家のネコが床に転がって涼む季節がやってきました。（私はこの状態を“ネコが落ちている”と呼んでいます）人間にとっては過ごしやすい気温でも、毛皮を着た彼女にとっては暑いらしく、突然床にパタッと寝転がり、自分なりに暑さをしのいでいます。その様子を見て初めて、「ああ、夏が来るんだな…」と感ずることもしばしば。

昨年の夏はあまりの暑さに、良かれと思って「ひんやりジェルマット」なるものを買いましたが、全く見向きもせず床に落ちていた女王様。今年は使ってくれるでしょうか？（佐藤）

私は自宅よりも外で読書の方が好きです。（自宅だとすぐに眠ってしまうので…）お気に入りの喫茶店があるのですが、そこは両親が若い頃に頻りにデートをしていた場所らしいです。私はそのことを知らずに通っていたので、母から聞かされたときはとても驚きました。世間はなんて狭いのでしょうか…。

嬉しいような恥ずかしいような。複雑な気持ちになりましたが、とても落ち着く場所なので今も通い続けています。親子それぞれの思い出が詰まった某喫茶店。チェーン店に負けず、できるだけ長く営業してほしいと願っています。

（長井）